

# 関係者が主体的に関わりつくる 施設一体型の小中一貫校

角鹿小中学校（福井県敦賀市）

## 本事例のキーワード

小中一貫

対話型設計

メディア  
センター

柔軟な学習空間



## 事例のポイント

角鹿小中学校は、3小学校1中学校を統合し、公立では県内初の施設一体型小中一貫校として令和3年に開校。

利用者協働型の設計プロセスが実践され、多くの関係者との関わりの中で新校舎が整備された。

## 事例概要

角鹿小中学校は、旧角鹿中学校の校舎の老朽化への対応や児童生徒のより良い学習環境の実現等を目的に、角鹿中学校区内の4校（敦賀北小学校、赤崎小学校、咸新小学校、角鹿中学校）を統合して令和3年度に開校した。公立学校では福井県内初となる施設一体型の小中一貫校である。

敦賀市では、敦賀市教育振興基本計画に基づき、中学校区での小中一貫教育を全市的な取組として進めている。角鹿小中学校の開校に向けては、設計者と行政のみならず、地域住民や教職員、児童生徒といった利用者が共にワークショップを実施し、この地区の学校がどのようにあるべきか、小中一貫校の利点を生かした計画とはどのようなものか検討を重ねた。そして、その検討結果を踏まえ、「ソフト（教育）」と「ハード（建築）」の両面から、敦賀市ならではの「施設一体型の小中一貫校」を目指して校舎の整備を進めた。

完成した校舎は、敦賀港からはじまる広大な海の水平線をイメージした水平基調の外観デザイン。内部には県産材をふんだんに使い、温かみを感じる学習・生活空間を実現。学びの拠点となる「天筒メディアセンター」を1階中央に配置し、本を介した児童生徒の日常的な交流を促す。階段状の床に音響設備等を備えた「角鹿ホール」や、異学年で交流ができる「木の芽ホール」など、活動に合わせて選択できるスペースが充実。小中一貫校となることで多忙化する教職員の負担を減らす職場環境づくりにも配慮している。



## 利用者と協働する設計プロセス

敦賀市が、角鹿小中学校の設置に向けた課題の解決や準備事項について、検討・調整を行い、同校の設置を円滑に進めるため、学識経験者、各地区の区長会長、各小中学校PTAの代表者、近隣保育園・幼稚園の保護者の代表者、関係団体の代表者、各小中学校の代表者で構成される「角鹿中学校区小中一貫校設置準備委員会」を設置した。また、設置準備委員会には、「総務部会」、「学校運営部会」、「PTA部会」、「施設整備部会」の4つの部会を設け、各検討事項について協議を進めた。各部会の検討状況は随時、市のホームページに掲載し、地域住民と密に情報を共有しながら丁寧に協議を進めた。

施設整備部会では、基本計画段階で4回、基本設計段階で4回、実施設計段階で5回、それぞれワークショップを開催。また、小学生を対象とした「トイレワークショップ」や、中学生を対象とした「メディアセンターワークショップ」を開催するなど、利用者と協働して設計プロセスが進められた。

### 【検討事項】

- 総務部会 : 学校名、校歌、校章、校訓など
- 学校運営部会 : 制服、体操服、学校行事など
- PTA部会 : PTA組織の統合・会費、通学方法など
- 施設整備部会 : 基本計画、基本設計、実施設計（ワークショップを複数回実施）



小学生ワークショップの様子



中学生ワークショップの様子

新校舎のトイレの壁面の一部に使用するモザイクタイルは、児童がワークショップで制作に取り組んだ。参加した子供たちは「新校舎で、自分たちが作ったタイルを探してみたい」と話し、新校舎への期待を膨らませた。また、教職員等によるトイレの土壁を施工するワークショップも開催しており、多様な関係者が主体的に取り組み、新しい学校づくりが進められた。



教職員等が参加したトイレの土壁施工の様子



児童によるトイレのモザイクタイル制作

## 事例ポイント 2

### 活動に合わせて柔軟に選択できる「集団学習スペース」

空間の大小、テーブルや椅子の有無、設置場所などの違いを持たせた多様な集団学習スペースを設けることで、学年全体や複数学年合同での学習活動など、活動に合わせて柔軟にスペースを選択することができるよう計画。



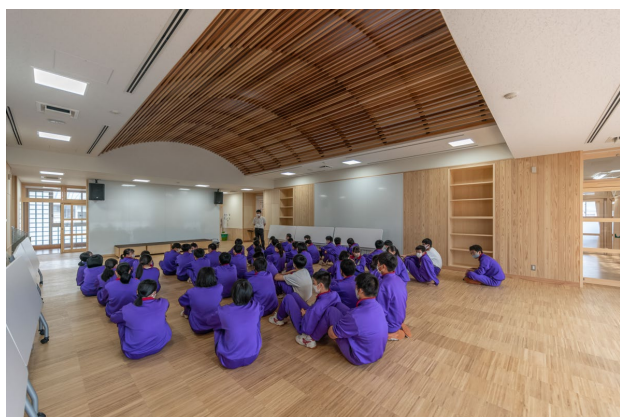
天筒メディアセンター

学びの拠点となるメディアセンターは動線の要となる1階中央に配置し、本を介した児童生徒の日常的な交流を促し、小中相互の図書が利用できるメリットを活かしている。中央には「敦賀湾」をデザインした絵本コーナーがあり、書架の間には様々な机や椅子、ベンチなどが設置されている。

角鹿ホールは、1階から2階につながる階段状のホールで、座席部分は敦賀湾の波打ち際のカーブがデザインされている。プロジェクターや音響装置を備え、様々な発表に加え教科学習でも活用されている。



角鹿ホール



木の芽ホール

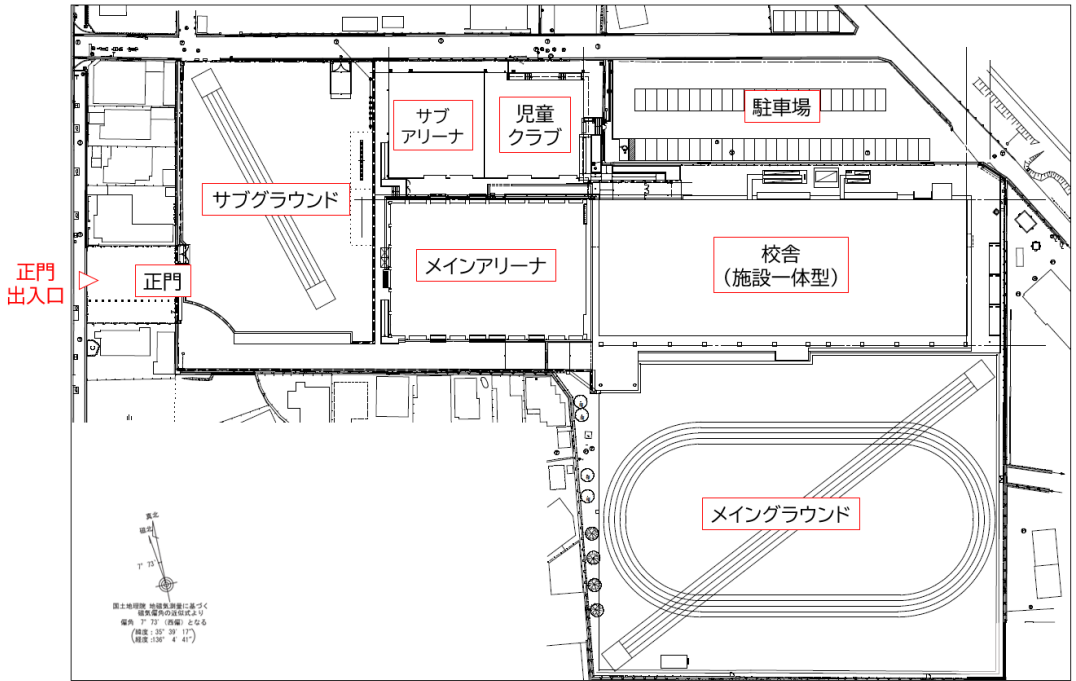
角鹿ホールの3階部分には多目的室として木の芽ホールを整備。大きなホワイトボードはスクリーンを兼用できるようになっている。2学年収容可能な広さがあり、制作活動や軽い運動など多目的に利用されている。

角鹿ホールの1階部分がこの中庭につながっている。透明なアクリル製の屋根があるので、雪や雨を防げるようになっている。

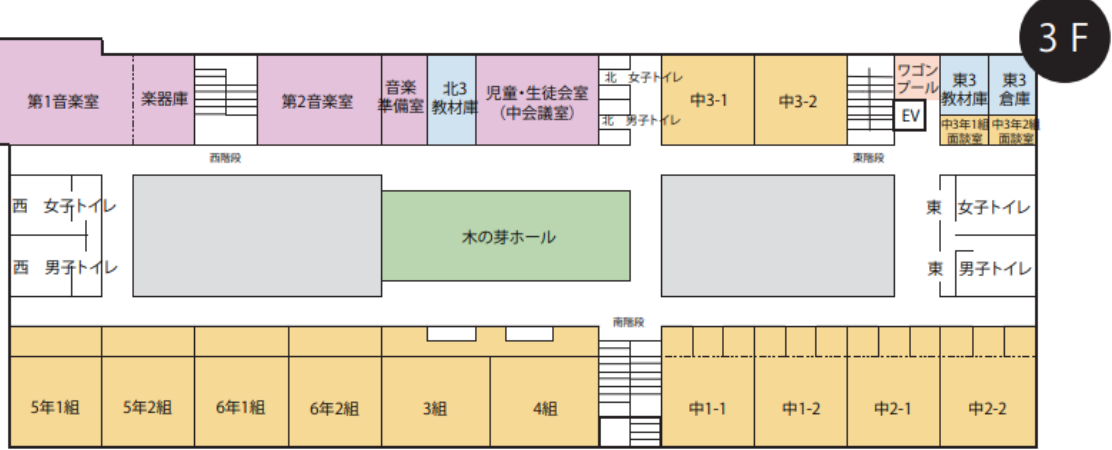
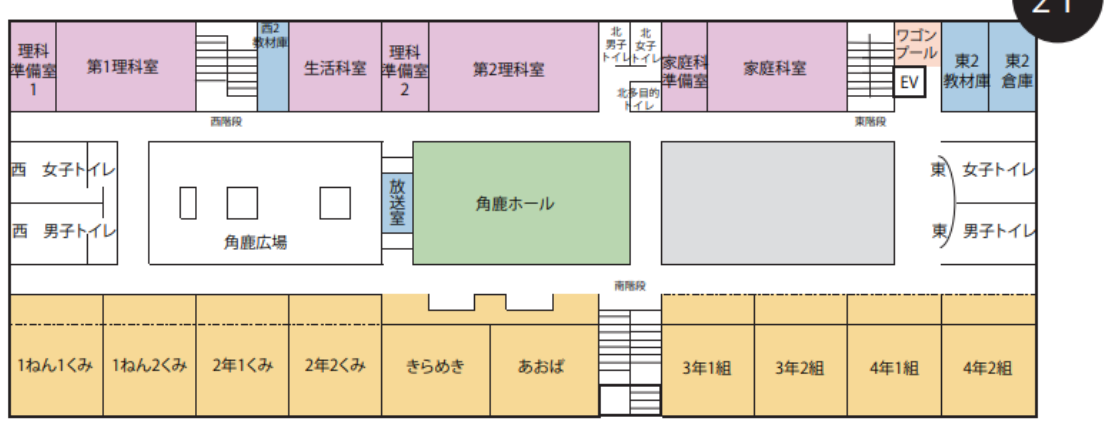
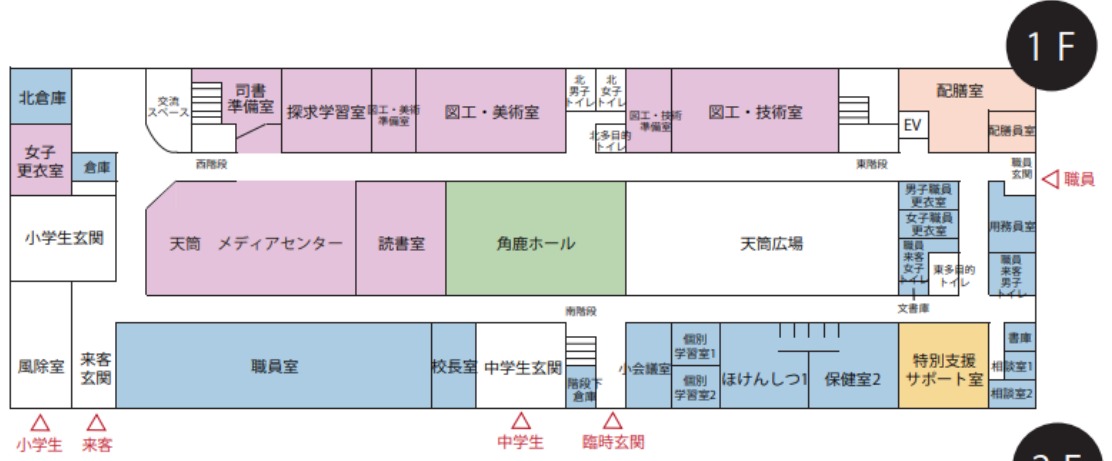


天筒広場

# 全体配置図



# 各階平面図



- 特別教室等
- 普通教室
- 管理系
- 多目的スペース
- 配膳室

# 学校概要

角鹿小中学校  
福井県敦賀市

全体工期：令和元年11月～令和3年3月

学校規模：18(4)学級、389人 ※学級数のカッコ内は特別支援学級数を表す。

建物敷地面積：11,685㎡

校舎延床面積：7,720㎡

構造：RC造（一部S造）3階建

※令和5年度時点